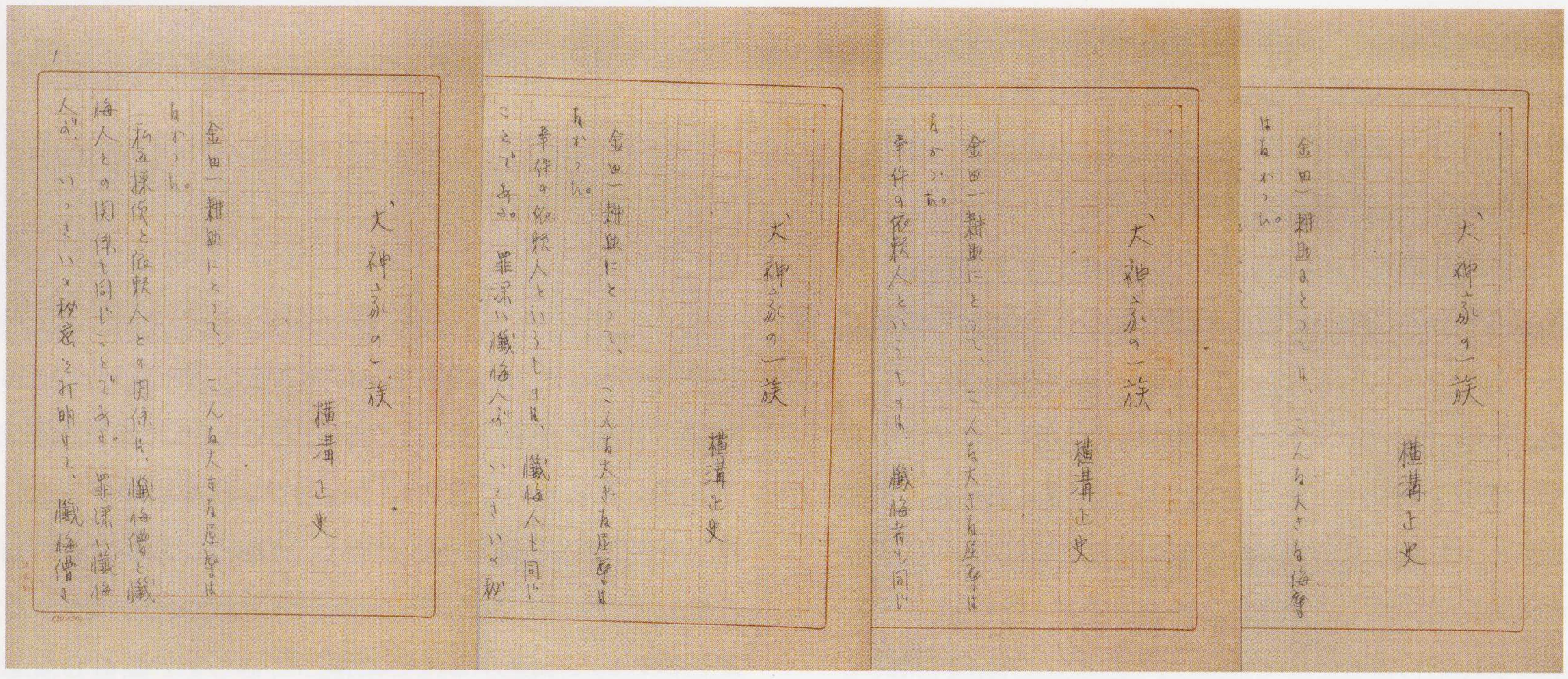
二松学舎大学附属図書館

季報

2008（平成20）年6月

『犬神家の一族』草稿



犬神家の一族

横溝正史

金田一耕助にとって、こんな大きな屈辱はなかった。

事件の容疑人といっても、職権人と同じことである。罪深い職権人が、いっさいの秘密を打明けて、職権僧さ

學而不思則罔、思而不學則殆　林謙太郎 ❷

新入生に読ませたい本 ❸

文学部国文学科教授　磯　水絵
文学部国文学科教授　山口　直孝
文学部中国文学科教授　武永　尚子
国際政治経済学部国際政治経済学科教授　髙野　和基
国際政治経済学部国際政治経済学科教授　田端　克至
国際政治経済学部国際政治経済学科教授　中山　政義

Book Review　長田真紀 ❻

今西幹一 著『佐藤佐太郎短歌の研究―佐藤佐太郎と昭和期の短歌―』

柏校舎図書館だより ❼

開館日 案内 ❽
卒業論文題目 ランキング
大学資料展示室 案内

No.69

學而不思則罔、思而不學則殆

附属図書館長　林　謙太郎

大学に入学して間もなく、秦野武國（はたのたけくに）という先生から『更級（さらしな）日記』を教えていただいた。かれこれ三十五年以上も前のことであり、多少私の解釈も入っているかと思うが、先生は冒頭、次のようなことを言われた。「肉体的に一番近い古典を見つけなさい。それを卒論にすればよい。卒論には死ぬまで研究に値するようなものを見つけることだ。その際には詳しい注釈書は避けたほうがよい。どんどん原文に当たって、疑問点や問題点があったら、抜き書きすること。そして自分なりの答えを試みなさい。君たちは未熟だから、きっとそれらについては、すでに先人たちが答えを出しているかもしれない。そしたら、ああ、彼も私と同じようなことを言っている、と思えばよい。客観的に見れば、君たちの考えにオリジナリティーはない。しかし、主観的にはオリジナルな考えだ。結果的には同じ考えになったとしても価値が全然違うのだ」と。この話を聞いたとき、ああ、これが大学というところなのだなと感激したことを今でも覚えている。

ところが、せっかくのこの教訓が、その後に生かされない苦い経験も味わうことになる。ある演習の時間に、準備時間の不足もあって、とりあえず体裁を取り繕おうと、先輩の発表資料の丸写しと、いくつかの注釈を付け加えただけの発表をしてしまったのである。何の気分の高揚もない、後味の悪さだけが残っただけであった。やはりこの順序は大事にしたいものだ。たとえ、オリジナルなものが出せなかったとしても。

それにしても、当時の研究環境と大きく変わってしまったのは、なんといってもIT技術の発達である。インターネットによって、われわれは即時に膨大な知識をいとも簡単に手に入れることができるようになった。検索サイトは、ヒットすればどんなものでも呈示してくれる。いわば、無限の索引が完備されているようなものだ。こんな便利なものを使わない手はないと思うのは当然である。ハードウエアとソフトウエアはどんどん進化してとどまるところを知らないようにさえ見える。問題はコンテンツである。参考資料が書籍だけしかなかった時代には、自然に出典を明記する習慣ができていた。それが今の検索サイトには、いつ、誰が、初めてそのことを言ったのかという、プライオリティーに関しては、全く無頓着のように見える。というより、はじめから研究用には作られていないといったほうが正しい理解になるのかもしれない。だからこそ、用途によって、わきまえて使わないとせっかくの宝も台無しになってしまうのだ。ひとりの人間の考えなんて高が知れているのだから、はじめから先人の知恵を借りたほうがずっとしっかりしたものができるではないかと考える、その謙虚さは確かに大切なことではある。しかし、繰り返しになるが、やはり順序が違う。はじめから人の褌（ふんどし）で相撲（すもう）をとったら、その場はうまくいったとしても、次も同じようにうまくゆく保証などどこにもないのだ。というより、ある意味、はじめから自分のオリジナリティー性を摘み取っているともいえるのだ。もったいないことだ。問題解決の過程にこそ意味があるのである。ある程度考えがまとまったのちに、他人の説を見れば、他人の苦労もより深く理解できようというものだ。

さて、今まで述べてきたような、「……のために読む」というのではなく、気ままに読んでいって、引っかかったものを頭の片隅にでも記憶しておく、といった流儀も当然ありである。そもそも学生という身分は、未来が無限定といった特権を有しているからである。これといった目的がなくとも、どうか図書館にぶらっと立ち寄ってもらいたい。そしてしばしの間、自分の世界に浸ってほしい。蔵書も読まれなければ、存在しないに等しいからだ。もちろん、自分に付加価値をつけるべく、理論武装、知識武装するためにも大いに利用してほしいものだ。

最後に、自戒の意味をも込めて、茨木（いばらき）のり子の詩の一節を引いて結びとしたい。

駄目なことの一切を
時代のせいにはするな
わずかに光る尊厳の放棄
自分の感受性くらい
自分で守れ
ばかものよ　　（「自分の感受性くらい」より）

新入生に読ませたい本

文学部国文学科教授　磯　水絵

①『橋をかける―子供時代の読書の思い出―』　美智子　（株）すえもりブックス　1998年

本書は、1998年9月21日朝、インドのニューデリーに開催された国際児童図書評議会第26回世界大会において、ビデオテープによって上映された美智子皇后の基調講演を収録したものである。内容は、皇后の子供時代の読書の思い出に尽きるが、国際性に富んでおり、格調高い話し言葉を記録した書物である。美しい日本語を継承していってほしい次代をになう若者に、口語のテキストとして推薦したい。

②『益田勝実の仕事1～5』　益田勝実著、鈴木日出男・天野紀代子編（5のみ幸田国広編）　筑摩書房　2006年

1944年9月に二松学舎専門学校を卒業した偉大なる先輩、益田勝実氏の全業績に迫るもの。専門学校から東大国文学科に進学、大学院を経て都立神代高等学校定時制の教員となり、教育に励むかたわら、文学研究を続け、長く法政大学文学部に籍を置かれた氏の研究は多角的で、一口では表現できないが、中でも特に2の『火山列島の思想』はお勧め。

③『書物の中世史』　五味文彦　みすず書房　2003年

「序　書物史の方法　『本朝書籍目録』を素材に」を一読してもらいたい。その冒頭には、「日本中世の書物を広く取り上げて、その成り立ちや歴史的展開などを探ることを意図している」とある。本書は、従来、歴史的把握を、「ジャンル別にばらばらに」なされて、「同じ土壌から生まれているにもかかわらず」、総合的な視点で見てこられなかった書物を、有機的に捉えて見ていこうとするものである。文学史のサブテキストとして推薦する。

文学部国文学科教授　山口　直孝

期待をこめて、手強い本を3点挙げておきます。いずれも、読み手を鍛えてくれるはずです。

①『神聖喜劇』全5巻　大西巨人　光文社　2002年

近代日本の、に止まらず、20世紀文学の最大の収穫と言うべき傑作。太平洋戦争開始直後の対馬を舞台に、主人公の東堂太郎が軍隊内での合法闘争を通して、虚無主義からの脱却をする小説と要約しても、おそらく何の魅力も伝わるまい。最高の知性が状況とぶつかる時、とてつもない笑いと勇気とが生まれることをぜひ実物で味わって欲しい。長さもあって、簡単に読める小説ではないが、一生のお宝となることは間違いない。最初は、分からないところを飛ばしても構わないので、まず通読を。岩田和博・のぞゑのぶひさによる漫画版（幻冬舎）もある。

②『新版　文学とは何か――批評理論への招待』　テリー・イーグルトン／大橋洋一訳　岩波書店　1997年

文学とは何のためにあるのか、またそれを考察することにどういう意味があるのか、という基本的な問いに正面から取り組んだ最良の入門書。実際に読むのは楽ではないかもしれないが、とりあえずこれぐらいのことは知っておかないと研究が始まらないのも事実。大橋洋一『新文学入門――T・イーグルトン『文学とは何か』を読む』という入門書の解説本もあるので、こちらから入るのも一つの手。文学を楽しむとは、単に消費するだけでないことが分かればしめたもの。

③『沈黙/アビシニアン』　古川日出男　角川書店　2003年

古川日出男は、現在における最も良質なエンターテインメントの書き手であろう。その初期作品二作がカップリングされたお買い得品。謎の音楽ルコをめぐる壮大な探究と世間から滑り落ちた男女の恋愛という、まったく違った話を楽しめることができる。空白を常に抱え、展開がずれていく古川の世界に触れることは、暴力にあふれた現在における物語の役割を考えるのにいい機会となるはず。古川の作品に外れはないので、むろん他の作品でも可。

新入生に読ませたい本

文学部中国文学科教授　武永　尚子

①『明治10年からの大学ノート』　二松學舎大学小史編集委員会編　三五館　2007年

昨年10月10日に創立130周年を迎えた本校が「二松学舎130年のあゆみ」として出版したものである。これは単なる大学紹介本ではなく、幕末から明治時代については歴史書の要素が強く、この激動の時代に、本校創立者三島中洲がどんな働きをしたのか、どうして維新から10年たった時期に漢学塾を始めたのかが見えてくる。机の前で中国の古典を読むことだけが漢学ではないのである。

②『李登輝学校の教え』　李登輝・小林よしのり　小学館　2003年

1988年から12年間台湾の総統として、台湾を民主主義国家に変革させ、経済大国に育て上げた李登輝と漫画家小林よしのりの対談を編集したものである。この本は過去の歴史に対する罪悪感から自信喪失に陥っている日本人に自信とプライドを蘇らせてくれる。また、政治とは何か、政治家とはどんな存在であるべきなのか、しみじみ考えさせられてしまう。

③『駱駝祥子』　老舎／中山高志訳　白帝社　1991年

私が中国の現代文学の虜になるきっかけとなった中編小説である。老舎は「人の心」の描写に長けた作家で、登場人物の発した一言、ちょっとした仕草によって、その人物の性格や心理状態が手に取るように私たちの心に伝わってくる。中国語を勉強している新入生の皆さんには、卒業までにぜひ原文で読んでみてほしい作品である。

国際政治経済学部
国際政治経済学科教授　高野　和基

こんな本を読みながら、少し離れた視点から、「わたし」の《今》を考えてもらえたらうれしいな、と思います。

①『ぼくもいくさに往(ゆ)くのだけれど－竹内浩三の詩(うた)と死』　稲泉連　中央公論新社　2004年

ある若者が、偶然目にした一篇の詩に「自分にも切実な何か」を感じました。彼は、詩の作者であるひとりの若者（竹内浩三）とその時代を追い続け、みずみずしいノンフィクション作品に結実させました。東京でタノシイ学生生活を送る弟へお姉さんが送った叱責の手紙…うふふ、でした。浩三は、23歳で戦死しました。

②『日本の200年－徳川時代から現代まで』（全2冊）　アンドルー・ゴードン／森谷文昭　みすず書房　2006年

著者は、日本研究者として著名なハーヴァード大学の先生です。上下二冊の大作ですが、退屈な歴史の本、という先入見は裏切られます。たとえばこんな一節はいかが。「（1990年代以降の若者を紹介・・・）しかし、1920年代の「モダンガール」や「モダンボーイ」たちのように、親たちとはちがう行動様式をとり（しかも親たちを憤慨させる）若者の姿というのは、日本の近現代史をつうじてつねに存在し続けてきたのである」。

③『「戦艦大和」と戦後』　吉田満／保阪正康編　筑摩書房　2005年

「昭和十九年末ヨリワレ少尉、副電測士トシテ大和ニ勤務ス」で始まる『戦艦大和ノ最期』の著者、吉田満の文集として、『最期』とその後書かれたエッセイなどをあつめた本です。21歳の若者の苛烈な体験を、漢字カタカナ混じり文で記録したのが『戦艦大和ノ最期』です。なお、戦後を真摯に生きた吉田については、千早耿一郎『大和の最期、それから』（講談社、2004）が、丁寧です。

新入生に読ませたい本

国際政治経済学部
国際政治経済学科教授　田端　克至

①『どんな時も、人生に意味がある。―フランクル心理学のメッセージ』　諸富祥彦　PHP研究所　2006年

私は、基礎ゼミで、必ず千葉大学諸富先生の本を使ってきました。タイトルに心理学なんてあるから、難しいように思われるかもしれません。しかし、読み始めたら、一機にいける。

②『東大生が書いたやさしい経済の教科書』　東京大学赤門Economist　インデックス・コミュニケーションズ2005年

私の推薦というより、歴代のゼミ生たちの推薦です。ともかく分かり易い。始めて経済学が分かった。こんな評価を得ています。私も、半信半疑で読んでみましたが、確かに上手い!

③『グレートジャーニー「原住民」の知恵　』　関野吉晴　光文社　2003年

人類発祥の地への旅を10年続けた、探険家関野吉晴の書で一番手ごろなもの。「幸福論」なんてのも、あります。大ファンで、たまに食事などをさせて頂くのですが、いつも不思議な感動が!関野記念館も行ってみて。

国際政治経済学部
国際政治経済学科教授　中山　政義

①『ワイルド・スワン』(上・下)　ユン・チアン／土屋京子訳　講談社　1993年

中国人女性作家ユン・チアンの自伝的ノンフィクションである。激動の中国近代史を背景に、祖母、母、著者の三世代にわたって翻弄された苦難の歴史を丹念に描いている。現在では、急激な発展を遂げている中国だが、その一方で、都市と地方との貧富の拡大や民族問題など深刻な問題が顕在化してきており、実態を捉えるのは容易なことではない。本書は、読者が今まで持っていた中国に関する知識を塗り替え、より本質の理解に迫る一助になるかもしれない。

②『バカの壁』　養老孟司　新潮社　2003年

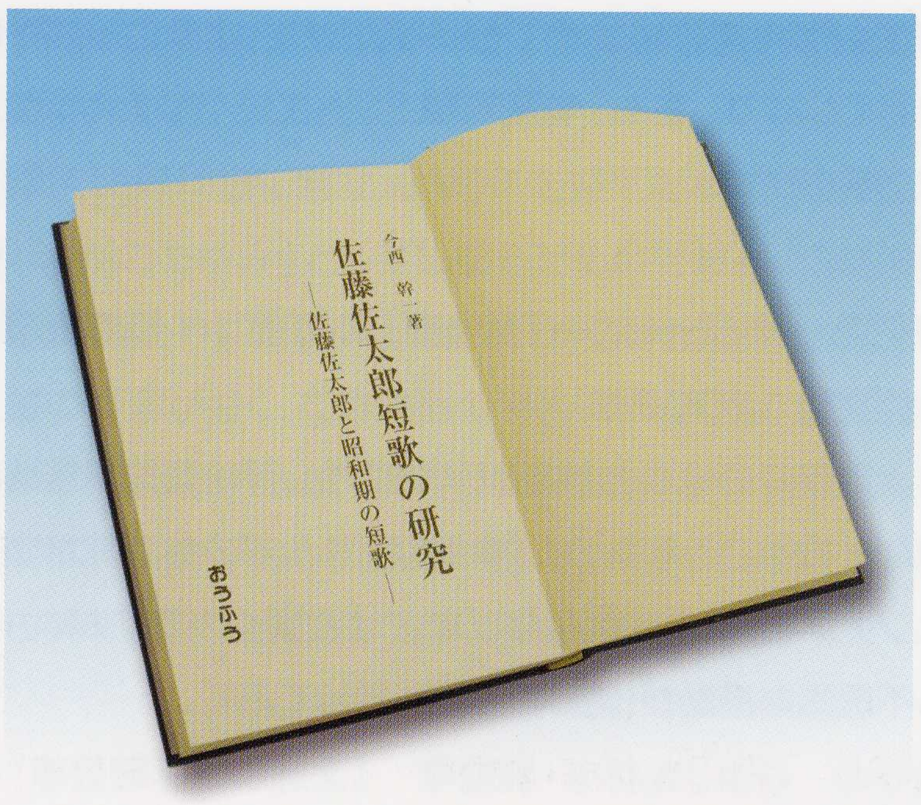
人間は、結局自分の脳に入ることしか理解できない。著者はこれを「バカの壁」といい、「互いに話が通じない」という現象がどうして起こるのかを説明する。そしてこの考え方により、「個性」・「情報」・「共同体」など、社会における様々な事柄を分析していく。そして、人はあるていど歳をとると、人にはわからないことがあると気付くが、若いうちは可能性があるので、わからないかどうかがわからない。そんな悩みをもつときには、「バカの壁」を知ることにより解決されるかもしれないといっている。

③『かもめのジョナサン』　リチャード・バック／五木寛之訳　新潮社　1974年

ジョナサンという名の、風変わりな鳥を描いた寓話である。彼にとって生きることの意味は、食べることではなく飛ぶことだった。飛行術を高めることに熱中し、限りなく自分の可能性を追求する。そして、仲間のカモメから非難されても、妥協せずに自分の理想を貫いていく。この本は、かつてアメリカや日本でベストセラーとなったが、ジョナサンの生き方に共感する若者は今も多い。

Book Review

上田女子短期大学教授　**長田　真紀**



今西幹一著
『佐藤佐太郎短歌の研究
—佐藤佐太郎と昭和期の短歌—』

著者は、先般五月十七日、日本歌人クラブ評論賞を受賞された。これは前年度に刊行された短歌・歌人についての評論や研究書のなかでも最も秀逸な書物に授与される賞である。この対象となったのが本書『佐藤佐太郎短歌の研究—佐藤佐太郎と昭和期の短歌—』である。著者は、正岡子規、伊藤左千夫、長塚節、島木赤彦、齋藤茂吉、北原白秋などを中心に、近・現代の詩歌研究で揺るぎない地歩を築いてこられた。とりわけ佐藤佐太郎研究においては他の追随を許さない。

佐藤佐太郎（明治四十二年～昭和六十二年）は、宮城県出身で高等小学校卒業後、上京して岩波書店の少年店員となった。茂吉の「童馬山房雑歌」に触発され短歌を始める。アララギに入会し作歌活動を展開していくが、写生に徹しながらもそこに鮮やかな新風を吹き込み、アララギという短歌集団に収まりきらない新星として光を放っていく。そのため、アララギ内部からは異端視されるきらいがあった。処女歌集『歩道』から歿後刊行された『黄月』まで十三の歌集を世に問うた。

本書はその佐太郎歿後二十年にあたる平成十九年十一月に刊行された。以下の六章から構成されている。

総　説「佐藤佐太郎の抒情の本質とその体系」
序　章「佐藤佐太郎短歌の心」
第一章「歌人佐藤佐太郎の誕生—佐藤佐太郎と昭和期の短歌—」
第二章「佐藤佐太郎短歌の展観—成立と展開—」
第三章「佐藤佐太郎短歌の世界」
終　章「近代短歌史における佐藤佐太郎の位置—昭和期の短歌と佐藤佐太郎—」

圧巻は第三章である。十三の全歌集を、「成立」「蕩揺」「確立」「展開（転回・拡幅・深化）」「到達と終幕（老いの生の味到）」の五期に分け、歌集収載歌だけでも六千四百首に及ぶ佐太郎短歌の世界を精緻にかつダイナミックに究明している。そして佐太郎の六十年にわたる文学的営爲の全貌を、明瞭に浮かび上がらせた。

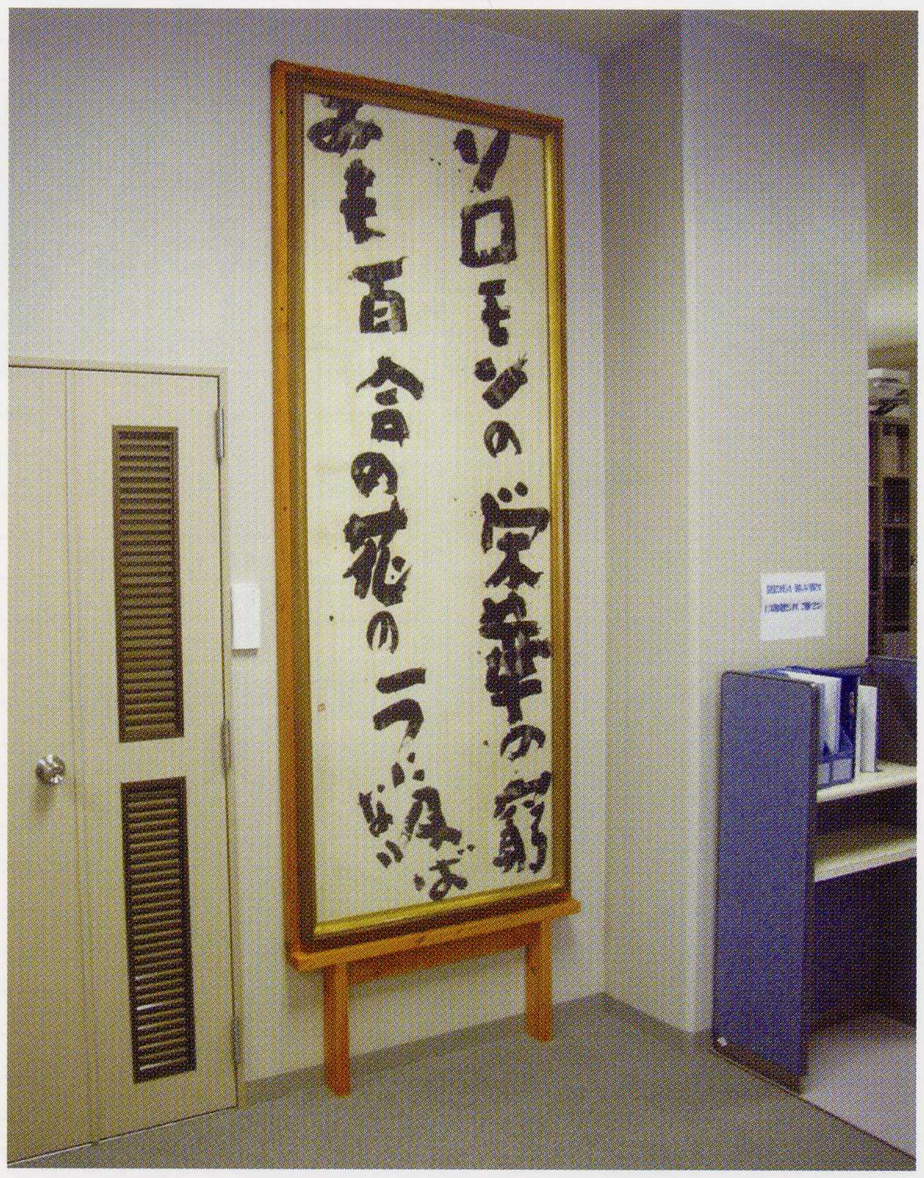
また、作者も作品も最終的には文学史のなかに位置づけられることになるわけだが、終章において、歌人佐藤佐太郎とその業績の体系的位置づけが著書の手によってなされたことの意味は極めて大きい。佐太郎の短歌が「アララギ」誌に始めて掲載されたが大正十五年十月。そして昭和十五年九月に刊行された第一歌集『歩道』から昭和六十三年九月刊行の第十三歌集『黄月』にいたるまで、佐太郎の短歌活動は昭和期とそのまま重なる。著者は本書の副題を「佐藤佐太郎と昭和期の短歌」としているが、昭和期短歌の形成についても佐太郎の果たした役割が明確に論じられている。

「出発期からもつ佐太郎の生の寂蓼、孤独感、それはまた佐太郎の抒情の基調をなすものである。」（「総説」）と著者は述べる。それが構造的に分析され、佐太郎短歌の本質へと展開されたのが本書である。

本書に次いで『佐藤佐太郎短歌の諸相』『佐藤佐太郎短歌の鑑賞』が近日裡に刊行されるという。あわせて佐藤佐太郎研究の金字塔となる三部作であり、またひとつ巨歩がしるされることになるだろう。

（おうふう刊　8,000円　なお筆者は本学元助手）

柏校舎図書館だより



柏校舎は皆さんご存じのように、常磐線・千代田線・東武線柏駅からスクールバスで約15分、手賀沼を見下ろす高台にあります。

さて、図書館は柏キャンパスの建物番号では5号館にあたります。両側からアーチ状に上る外階段で図書館の入口にたどりつきますが、この階段はよく卒業記念アルバムの写真撮影などに使われるなど、柏キャンパスの一番のスポットです。ですから、5号館2階が柏校舎図書館の入口になります。

この入口を通って館内にはいりますと、すぐに図書館カウンターがあり、そのままっすぐ進みますと、左手に今回ご紹介する展示資料があります。ひときわ大きい（縦270cm、横105cm）ので、すぐに目にはいると思います。

この資料、書額ですが、二松学舎専門学校20回（1951年3月）卒業の駒井鵞静（こまいがせい、本名定夫。1922～2004）氏が書いたものです。

「ソロモンの栄華の窮みも百合の花の一つに及ばない」は新約聖書マタイ伝からとったものです。

この言葉を書いたのは、「お嬢さんから「パパは神さまなんていないって言うけれど、お祈りしたいの　四さいあき」という紙片をもらって、その真摯なおもいにハッとなって、この書を書いた（たみや　ぶんぺい・書評論家（芸術新聞社発行『墨』183号より転載））」という背景があったそうです。

この作品により、第18回（1966年）毎日書道展大賞を受賞されました。

なお、この作品は、高等学校書道の教科書（東京書籍、教育出版）にも掲載されています。是非、一度実物を見学に来館してください。お待ちしています。

※参考

駒井鵞静氏の著書を紹介します（柏校舎図書館所蔵分）。

○「全国書の名蹟めぐり」上・下　雄山閣出版　1987年
（請求番号728.21−Z−1～2）

○「不滅の書人　手島右卿と語る」　雄山閣出版　1989年
（請求番号728.21−F）

○「つづけ字の知識と書きかた」　東京美術　1990年
（請求番号728.4−T）

○「くずし字の知識と読み方」　東京美術　1991年
（請求番号728.4−K）

紀要の利用について

平成20年3月末日までに登録した紀要は、柏校舎の保存書庫に収蔵されています。複写等を希望する場合は、カウンター窓口で受け付けています。なお、不明な点がありましたならば、気軽に申し出てください。

開館日 案内

7月の開館日案内

（補･･･補講期間　試･･･試験期間）

	九段			柏	
	9:20 ～ 21:30	1	火	9:15 ～ 18:55	
	9:20 ～ 21:30	2	水	9:15 ～ 18:55	
	9:20 ～ 21:30	3	木	9:15 ～ 18:55	
	9:20 ～ 21:30	4	金	9:15 ～ 18:55	
	9:20 ～ 16:20	5	土	9:15 ～ 16:00	
	閉　館	6	日	閉　館	
	9:20 ～ 21:30	7	月	9:15 ～ 18:55	
	9:20 ～ 21:30	8	火	9:15 ～ 18:55	
	9:20 ～ 21:30	9	水	9:15 ～ 18:55	
	9:20 ～ 21:30	10	木	9:15 ～ 18:55	
	9:20 ～ 21:30	11	金	9:15 ～ 18:55	
	9:20 ～ 16:20	12	土	9:15 ～ 16:00	
	閉　館	13	日	閉　館	
補	9:20 ～ 21:30	14	月	9:15 ～ 18:55	補
	9:20 ～ 21:30	15	火	9:15 ～ 18:55	
補	9:20 ～ 20:00	16	水	9:15 ～ 18:55	補
補	9:20 ～ 20:00	17	木	9:15 ～ 18:55	補
補	9:20 ～ 20:00	18	金	9:15 ～ 18:55	補
補	9:20 ～ 16:20	19	土	9:15 ～ 16:00	補
	閉　館	20	日	閉　館	
	閉　館（海の日）	21	月	閉館（海の日）	
補	9:20 ～ 20:00	22	火	9:15 ～ 18:55	補
試	9:20 ～ 20:00	23	水	9:15 ～ 18:55	試
試	9:20 ～ 20:00	24	木	9:15 ～ 18:55	試
試	9:20 ～ 20:00	25	金	9:15 ～ 18:55	試
試	9:20 ～ 16:20	26	土	9:15 ～ 16:00	試
	閉　館	27	日	閉　館	
試	9:20 ～ 20:00	28	月	9:15 ～ 18:55	試
試	9:20 ～ 20:00	29	火	9:15 ～ 18:55	試
試	9:20 ～ 20:00	30	水	9:15 ～ 18:55	試
試	9:20 ～ 20:00	31	木	9:15 ～ 18:55	試

8月の開館日案内

（補･･･補講期間　試･･･試験期間）

	九段			柏	
試	9:20 ～ 20:00	1	金	9:15 ～ 18:55	
試	9:20 ～ 16:20	2	土	9:15 ～ 16:00	
	閉　館	3	日	閉館	
試	9:20 ～ 20:00	4	月	9:15 ～ 18:55	
試	9:20 ～ 20:00	5	火	9:15 ～ 18:55	
	9:20 ～ 16:20	6	水	9:15 ～ 16:00	
	9:20 ～ 16:20	7	木	9:15 ～ 16:00	
	9:20 ～ 16:20	8	金	9:15 ～ 16:00	
	閉　館	9	土	閉　館	
	閉　館	10	日	閉　館	
	9:20 ～ 16:20	11	月	9:15 ～ 16:00	
	9:20 ～ 16:20	12	火	9:15 ～ 16:00	
	閉　館	13	水	閉　館	
	閉　館	14	木	閉　館	
	閉　館	15	金	閉　館	
	閉　館	16	土	閉　館	
	閉　館	17	日	閉　館	
	9:20 ～ 16:20	18	月	9:15 ～ 16:00	
	9:20 ～ 16:20	19	火	9:15 ～ 16:00	
	9:20 ～ 16:20	20	水	9:15 ～ 16:00	
	9:20 ～ 16:20	21	木	9:15 ～ 16:00	
	9:20 ～ 16:20	22	金	9:15 ～ 16:00	
	閉　館	23	土	閉　館	
	閉　館	24	日	閉　館	
	9:20 ～ 16:20	25	月	9:15 ～ 16:00	
	9:20 ～ 16:20	26	火	9:15 ～ 16:00	
	9:20 ～ 16:20	27	水	9:15 ～ 16:00	
	9:20 ～ 16:20	28	木	9:15 ～ 16:00	
	9:20 ～ 16:20	29	金	9:15 ～ 16:00	
	閉　館	30	土	閉　館	
	閉　館	31	日	閉　館	

○7月7日(月)から夏期休業中の長期貸出を開始します。○補講・試験期間中、九段図書館は20時閉館となります。
※ **開館**または**閉館時間**を変更しています。ご注意ください。　※ 開館時間等が変更になる場合は、随時、訂正版や掲示等でお知らせします。

卒業論文題目 ランキング

平成17年度から19年度までの年度ごとの卒業論文題目（文学部）の長短を調べてみました。

《長い題目ベスト3》（記号も1語と数えました）

【17年度】
①WELCOM TO REAL WORLD ～映画「MATRIX」論　現実と非現実の世界～（48）
②枕草子「は」型類聚章段の研究ー「木の花は」「花の木ならぬは」「草の花は」をめぐってー（42）
③徳州の三高碑についてー高貞碑に代表される三高碑が建碑された背景とその書美・書法　ー（40）

【18年度】
①日・中の鎖国政策に於ける政治文化の比較研究（元・明・清から現在、江戸・明治・現在の比較）（44）
②『三国志』と『三国志演義』に見る周瑜と諸葛亮の比較研究ー「赤壁の戦い」を中心にしてー（42）
③『セロ弾きのゴーシュ』結尾における改稿の論理ー「喜び泣く」からかっこうへの謝罪へー（41）

【19年度】
①叙述トリックの果てにみえるものー『蛍』と『イニシェーション・ラブ』にみる新本格ミステリの行方ー（47）
②武者小路実篤「二つの心」「『嬰児殺戮』中の一小出来事」論～二つの自己の迷いをめぐって～（43）
③「ツバサ・クロニクル」「機動戦士ガンダムSEEDDESTINY」梶浦由記、佐橋俊彦へ（42）

《短い題目ベスト3》

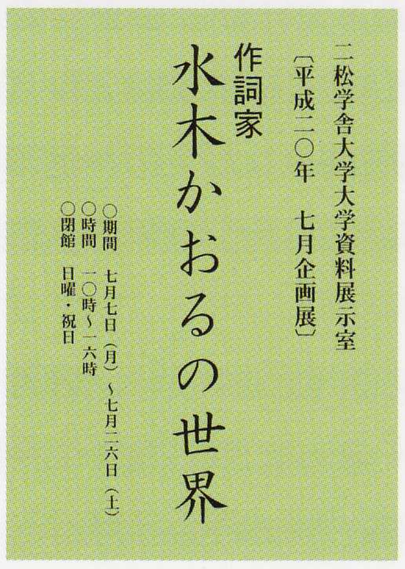
【17年度】
①魯迅（2）
②諡號攷;時間論（3）
③神話と私;枯木灘論;楚辭研究;空海の書;李白と酒;能の研究;陳源研究;嵐雪研究;蕪村と画;「音」論（4）

【18年度】
①声（1）
②地震;李白（2）
③日本人（3）

【19年度】
①芥川論（3）
②能楽の音;万葉の鳥;花鳥風月;現代俳句（4）
③面について;過去、未来;ソリ・ハナ; 소리　하나;狐と日本人;都市の怪異;中島敦研究;李白の生涯;李白のうた（5）

大学資料展示室 案内

7月の企画展は、本学出身の作詞家「水木かおる」氏を取り上げ、開催します。



表紙資料解説

横溝正史草稿「犬神家の一族」

日本の推理小説史上の不朽の名作。「犬神家の一族」の草稿は、冒頭部分だけでも何種類も残され、完全主義者であった作者が、悩み推敲したことが分かる。掲出のものは、その一つで、第1章絶世の美人「古館弁護士」の冒頭部分。

二松学舎大学附属図書館
季　報
第69号

発行日　平成20（2008）年6月25日
発　行　二松学舎大学附属図書館
九段校舎図書館　〒102−8336　東京都千代田区三番町6-16
電話:03-3263-6364
柏校舎図書館　〒277−8585　千葉県柏市大井2590
電話:04-7191-8758
印刷所　株式会社 サンセイ
電話:03-5614-2515